

令和3年度 足立区立学校国際コミュニケーション科に係る自己評価書兼学校関係者評価書

学校名 興本扇学園

学校長名 稲葉守朗

評価団体名 興本扇学園開かれた学校づくり協議会

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え学ぶ人 ・共に生きる人 ・健やかに伸びゆく人 	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像等	学校像 ・9年間を通したカリキュラムを実践し、将来、社会の一員としての役割を果たすために必要な能力・態度を身に付けた児童・生徒を育成する学校。 児童・生徒像 ・粘り強く、主体的・継続的に学ぶ子 ・心身ともに健康で、情操豊かな子 ・自己実現を図り、社会に貢献できる子 教師像 ・明るく誠実に職務に取り組む教師 ・一人一人の児童の良さを伸ばせる教師 ・児童・生徒が意欲的に学習できる、魅力的な授業を行える教師
前年度までの成果・課題	英語によるコミュニケーション能力を高める学習内容を見直した。Tokyo Global Gateway体験を5, 7, 8年で実施した。また、明海大学留学生との交流授業を7～9年で実施した。ネイティブとの交流を通して英語によるコミュニケーション力の向上を図った。 オリンピック・パラリンピック教育は、体験活動は計画的に実施できたが、その他の活動は教科等によって実施規模の差がある。		

学習内容	具体的な取り組み	自己評価	来年度に向けた改善策	学校関係者評価
英語によるコミュニケーション能力を高める学習	英語で遊ぼう welcome to Tokyoを使った活動 Tokyo Global Gatewayでの活動 明海大学の留学生との交流 外国人へインタビュー 英語の絵本の読み聞かせ 異学年による英語教え合い活動 ICT (タブレット端末) を使ったGTEC等対策 校内スピーチコンテスト	各期で到達目標を設定し、低学年ではゲーム感覚で親しみ、5年生からはTGGや留学生など外国人との交流機会を増やし、計画的に外国語によるコミュニケーション力を向上させるとともに、国際理解を深めることができた。 英語交流会として異学年で英語交流をする機会や、8, 9年生が下級生に英語で発表する機会を設定することで、表現力や聞く力を身に付けることができた。 9年生が実施したGTECではCFER-JのA1.3レベルの生徒が30%、A1.2レベル以上の生徒が76%であった。	留学生交流の成果を発表するために実施した英語交流会は、留学生交流直後に実施したため、準備に時間がとれなかった。そのため準備不足だった。次年度は更に中学生が主体的に活動できるような計画を立てる。 TGG体験後の報告方法などの事後学習について検討が十分にされず、学年裁量となった。発達段階に応じた事後学習の目標を確立させる。	国際社会で生きていく子供たちにとって、外国人と意図的に交流する機会をもつことは非常に大切である。また、人と関わるコミュニケーション能力を高めることにもつながる。今後も英語に親しむ機会、様々な人と触れ合う機会を本学園の教育に取り入れてほしい。
国際理解を深める学習	日本の伝統文化に関する学習 (百人一首・ソーラン節・和太鼓) 世界の国々や文化の調べ学習 (タブレット端末などを使用) 校外学習や宿泊学習・体験活動を伝える (鋸南・日光・魚沼・京都・奈良) オリンピック・パラリンピック教育	日本の伝統文化に関する学習では、9年間を通して百人一首に親しませ、発達段階に応じて学習する首を増やすとともに、異学年で学ぶ機会を設定し、伝統文化の理解を深めることができた。5, 6年生では和太鼓やソーラン節を学び、日本の伝統文化について理解を深めることができた。また、地域のゲストティーチャーが指導及び支援者として参加し、地域との連携を深めることもできた。 発達段階に応じた校外学習などの発表方法を計画した。口頭による発表から始め、中学生ではプレゼンテーションソフトを活用した発表を行った。また、5年生以上は下級生に向けて発表をさせ、日本文化についての理解と表現力を向上させた。	日本の伝統文化に関する学習については発達段階に応じた指導方法が確立している。一方、世界の国々や文化の調べ学習について指導方法が定着していないものについては、異学年による報告会などを実施し、発達段階に応じた指導方法を確立する。	百人一首、和太鼓などにおいて地域住民がゲストティーチャーとして関わる機会があり、地域と一緒に子供たちを育成する体制を継続してほしい。 授業公開時に、小学生のクラス児童が全員タブレット端末を使って学習していることに驚いた。ぜひICT機器の活用を充実させてほしい。
自らの生き方を考える学習	解決方法を考えて発表する 情報教育・ICT教育 職業・キャリア教育に関するもの (夢の実現に向けて) 人権や福祉に関するものやSDGs 表現活動 (学園祭) 環境問題	小学生で生物が生息する環境を、中学校ではエコプロへの参加など国際的な環境問題を系統的に学ぶことで、持続可能な社会の実現に向けて自分たちができることを考えることができた。 発達段階に応じた学園祭への取組を通して、目標を達成するためにどのように取り組んでいくかを計画していく力を高め、問題解決能力を育成することができた。 「幸せになるために」というテーマを9年間の目標とし、学年を追うごとに範囲を広げたテーマを設定し、仲間とともに解決方法を考えていく中で、対話する力、コミュニケーション力、国際理解力を付けた。 I期は身近な社会を知る。II期は自分の夢の実現。III期は進路と職業について系統的に自らの考えを広げながら、知識や技能、思考力表現力の育成を図ることができた。	新型コロナウイルス感染症への予防のため、東校舎と西校舎別々に学園祭を実施することにした。そのため感染対策や予防に重点を置きながらも、児童生徒の創作力や表現力・実践力を引き出す取り組みにすることができた。学園祭を仕上げるまでには、国際や教科の授業を使用しているが、低学年においては国語の授業を多く費やしている。国際以外の授業時間を少なくして学園祭の取組が実施できるような計画を立てる。	学園祭での子供たちの様々な姿や表現には、非常に心をうたれる。地域としては楽しみにしているが、ここまで仕上げるのに多くの時間を費やしたのではないかと心配もある。教科の授業も更に充実させ、子供たちをバランスよく育ててほしい。